



天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2015年6月27日(土)

秋田高校東京同窓会 総会・懇親会

同窓会の集まりは、自由意志尊重が原則。出た
い人、出られる人が出席すれば……ではあるが、
万難を排して……などという言葉でもって、多く
の参集を強く呼びかけざるを得ないこともある。

親交のある在京他校同窓会の役員諸氏との話の
中で、総会になかなか思うように人(特に若手)が
集まらない……ということをよく耳にする。

同窓会に年齢は関係ないが、世に準じて(?)か、
どこも多分に高齢化傾向にあって、10年後20年後
はどうなる? というものもある。

わが同窓会は比較的元気な現況ではあるが、時
には同窓会のこれからを、役員・幹事であるなし
関係なく皆で論じ合うのも必要だろう。忌憚のない
意見を交わせるのも同窓会の良いところ……。

今年秋高同窓会(本部)設立100周年です。

総会・懇親会への多くの皆様のご参加、心よりお待ちしております。

開催要項

- 会 場 …………… ハイアットリージェンシー東京 >>>
- 受 付 …………… 16:00 ~
- 総会・事業報告 …… 16:30 ~
- 講 演 (町田 睿氏) … 17:00 ~ 17:50
- 懇親会 …………… 18:00 ~

◆ 当日会費 ・8,500円

※ 本会報同封振込用紙でお振込みの場合は 8,000円です。

講演者

町田 睿 氏
さとる
秋高 S31年 卒



北都銀行 取締役会長
荘内銀行 取締役相談役
東北公益文科大学 理事
秋田高校同窓会 会長

昭和37年東京大学法学部卒業後、富士銀行へ入行。
同行では信用開発部長代理兼信用ローン管理セ
ンター所長、市場開発部長、総合企画部長などを
歴任。

平成7年荘内銀行頭取就任。弛緩した組織に大変
革をもたらし、小粒ではあるが個性の光る金融機
関へと変貌させた。同行頭取を退任した翌平成22
年北都銀行との経営統合により設立されたフィデ
アホールディングス(株)取締役会議長並びに北都
銀行取締役会長に就任。その翌年に取締役相談役
として荘銀の役員に復帰。

平成24年東北公益文科大学学長に就任。定員割れ
が続き厳しい環境下に置かれていた同大の改革に
取り組み、平成26年同大理事に退いた。
昨年6月、秋高同窓会会長に就任。



東京都新宿区西新宿 2-7-2 TEL 03-3348-1234

橋本五郎の
AKITA
元気トーク



秋田高校東京同窓会 会長
橋本 五郎

郷土史の金字塔

八郎潟の干拓地に大潟村が誕生して50年。その歴
史が2冊の本にまとめられました。970頁の膨大な
『大潟村史』と、写真集『大潟村歴史写真館』です。
編集の中心になったのは秋田高校で私と同期(昭和
40年卒)の海山徳宏君です。大潟村の情報発信者制
度に応募して移り住み、7年の歳月をかけ、精魂尽
くして成し遂げたものです。

郷土史はあまたありますが、これだけのものは類
例がありません。読売新聞のコラム「五郎ワールド」
(4月11日付)でも取り上げました。公器である新聞
で同級生を称揚するなんて公私混同も甚だしい、と
いう批判もあるかもしれませんが、私は微動だ
にしません。それだけ価値があるからです。

50年の歴史を「読める年表」形式にして、苦勞なく
読めるようにしてあります。そこには、入植した
589家族、3000人の日常が描かれています。人名の
索引に登場する村民は2000人を超えます。その時、
自分が何をしたかがわかるのです。

写真集には1500枚の写真が掲載されています。
集まった8000枚から精選したのですが、キャプ
ションをつけるため、一枚一枚確認したということ
です。気の遠くなるような作業です。編集者として
の集大成にしようという気持ちがあったのでしょ
う。私は心から感動しました。偉業に乾杯です。

秋田高校東京同窓会

〒106-0032
東京都港区六本木 5-16-5
インベリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内

TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087

http://www.shuko-ob.net/

平成27年 大学生との交流会・新春賀詞交換会 報告

平成27年大学生との交流会 ご報告

東京同窓会幹事・交流会担当 鈴木 香 S51卒

平成27年1月31日(土)、賀詞交換会に先立ち恒例の「大学生と社会人の交流会」が大学生25名および社会人十数名の出席で「アルカディア市ヶ谷」で開催されました。

本年の交流会は、大手生保の人事・採用担当者からの“新制度での就活のガイダンス”に始まり、昨年の交流会に参加し内定を勝ち取った大学4年生二名に、就活の体験談を後輩に熱く語りかけていただきました。その後、学生達が志望する業種の先輩方から話を伺える機会を提供しました。

この交流会は、学生達が秋高同窓生の各界でご活躍の諸先輩方と面識を得て関係構築をはかり、就職の悩みを相談できる格好の機会であり、大学の同窓会とは一味違った特徴あるイベントであります。今後とも秋高東京同窓会は同窓生の絆・縁を大切に、この交流会を毎年継続して開催・運営していきたいと考えております。

平成27年新春賀詞交換会の様子



平成27年1月31日/於：アルカディア市ヶ谷



寄稿

「平成27年 大学生との交流会・新春賀詞交換会」に寄せて

「大学生との交流会」にて

須田 紘彬 H16卒

毎年1月下旬に定例的に行われている賀詞交換会前の大学生の就職活動(以下:「就活」と省略)支援。今回は、3部構成で行われました。まず、企業の人事の方が、就活のスケジュールや大変なポイント、陥りがちな失敗談などの一般的な概要を説明していただきました。問答形式で、理解しやすいものだったのではないかと思います。今年から大学生の就活は大きく仕組みが変わり、どこまで話しているものの判断が難しい中、工夫を凝らしていただき、心から感謝申し上げます。続いての2部では、就活を終えた4年生2名(藤嶋昂平氏、和田昇平氏)に経験談を話していただきました。夏休みのインターンシップの経験、就活を始めた時期や、まず何から始めたのか、志望の業界に興味を持った理由など、葛藤や決断の意志、将来への展望を踏まえた発表をしていただき、社会人が聞いてもタメになる内容でした。

最後の3部では、同窓生のご協力を多大にいただきながら、業界ごとに大学生との座談会を行いました。金融や商社はもちろん、流通、広告、印刷、IT、人材など、幅広い業界の同窓生にお集まりいただき、またご協力いただけたことに感謝申し上げます。

その後の賀詞交換会の席にて大学生からの感想を聞いたところ、「業界ごとの話も勉強になりましたが、普段から社会人と話す機会が無いので、それだけでとても勉強になりました」と言っていました。一方で社会人の同窓生からは「情報が多い現代で、学生の不安は我々の想像以上だった。学生は知識と経験のある社会人にもっと頼っても良いと思うし、支援してあげたい」との温かいお言葉を頂戴いたしました。

来年(2016年)は1月23日土曜日に行われます。今年の成功をさらに飛躍させるべく、来年度の取り仕切りを拝命いたしました。同窓生の固い結びつきの下、長い人生を豊かに過ごすための仕事選びに尽力してまいります。

「平成27年新春賀詞交換会」に参加して

有路 直樹 S55卒

新年賀詞交換会に2年ぶりに参加させていただきました。今回の参加目的は、仕事の関係で橋本五郎会長に講演をお願いするため。それと、特別講演の、消滅した川反芸者を「あきた舞妓」として復活させた水野千夏さんのお話を聴きたいと思ったからです。

「川反」、「舞妓」という言葉に心が惹かれたということもありましたが、今まで知らなかった川反の歴史や現状の課題、秋田美人と川反芸者との関係、秋田を元気にしたいという思い、そしてこれからの夢を語っている水野さんを見ると、何だか自分まで前向きな気持ちになっていました。

また、今回の新年賀詞交換会では、今までにはない企画(?)として、最後に参加者全員による集合写真を撮りました。これまでに何度か東京同窓会に出席させていただきましたが、これは初めてのことで、秋田高校同窓生としての繋がりを再認識するとともに、参加してよかったと思える思い出の写真となりました。

個人的には舞妓さんとのツーショット写真も、初めての体験でした。

今回は、他に同期の参加者はいませんでした。卒業後初となる昭和55年卒の東京同期会を今年の7月4日に、芝パークホテルで開催することになりました。幹事の佐々木雄一君と関(組谷)美貴子さんを中心に準備を進めており、多くの参加申込をいただいていると聞いていますので、卒業後35年ぶりの再会を楽しみにしています。

これをきっかけに、東京同窓会へも誘ってみたいと思っています。

「平成27年新春賀詞交換会」に参加して

今野 仁 S50卒

はじめまして。S50卒幹事をしております今野仁です。もともと筆不精なのですが、鎌田幹事長より依頼があり、先輩の命は絶対の体育会系ののりではじめて寄稿(報告)します。

例年通り就活ガイダンスからはじまり体験談、H20卒上柿史彦氏(富士重工)、H22卒和田昇平氏(キリンビール)、H22卒藤島コウヘイ氏(阪和興業)3氏の体験談に現役学生からの質疑、応答、参加者からのメッセージ(北都FHD町田氏ほか)などなかなか中身の濃い時間でした。

ただ、今年は就活状況が昨年と違うのか参加現役学生がやや少ないようでした。この場にたくさん先輩が参加して、若い現役にアドバイスいただければ、この会もどんどん発展していくのではないのでしょうか。

特別講演は水野千夏さん。(株)せんの代表です。あきた川反舞妓さんの会社の社長です。彼女が起業するまでの思い、秋田への熱い想いを語ってくれました。秋田市の昔の風景写真も見ることができ、さらに舞妓さんの踊りも鑑賞できて大変楽しめました。

講演が終わってお待ちかね交流会。今回は特別企画「舞妓さんと写真を撮ろう」があり、みなさん楽しくポーズをとっていたようです。

私の席には、S30卒の秋山先輩がいらっしやっただのですが、同期参加が1名で残念とおっしゃっていました。私50卒も参加3名で大きいことはいえませんが、先輩、後輩と年に一度顔を合わせて情報交換をすることは、とても楽しく有益だと思います。私も今後同期に声をかけ、参加を募るつもりです。

秋田高校同期の心をひとつにできる新年会、総会をぜひスケジュールに入れて頂けるよう念じてペンをおきます。

「秋高で学んだ」という事実が生むリアルな一体感

佐々木 広人 H2卒

プロ野球界の重鎮・野村克也氏は、自身の著書などでこんな話を記している。グラウンドの選手9人のなかで捕手だけが「向き」が違う。だから他の選手では見えないものが見えてくる、と。今回、畏れ多くも賀詞交換会の司会を務めさせていただいたが、司会席から見る光景は、まさにこの話を思い出させるものだった。

旧知の間柄どうしでの語らひは、会が(酒が)進むにつれ、先輩や後輩も入り乱れて輪が広がっていく。知らぬ同士が名刺を交換し、挨拶もそこそこに大声での談笑に。まるで商売っ気がない。これで小皿を叩くものなら「チャンキキおけさ」なのだが、そこはやはり校歌の斉唱。イントロが流れると誰もが条件反射的に「天上はるかに」と歌い出す。

あえて強調するが、ここに集いし面々の共通項は、「秋高で学んだ」という一点だけである。だが、このたった「6文字の事実」が年齢差や立場、性別、利害関係を越えて、リアルな一体感を作り出す。互いが学び舎で会ったかどうかは関係ない。それぞれの青春期にその学び舎にいたというだけなのだ。

現代は直接的なコミュニケーションが困難な時代と言われる。だからこそ、こんなシンプルな人間関係だけで酒を酌み交わし、語らう場は貴重だと思う。この場ではIDもパスワードも余計な気遣いも不要。必要なのは「秋高で学んだ」という事実だけ。

若い世代のみなさん、しがらみだらけの社会のなかで、こんなシンプルで「ゆるい」共同体は珍しいぞ。一度足を運んでみてはいかがだろうか。え?何が楽しいのか?来ればわかる。だって、君も「秋高で学んだ」仲間でしょ?

同期会から

S37, S54同期会よりご報告

S37卒首都圏同期会のこと

伊藤 清信 S37卒

昭和37年3月秋高卒首都圏同期会(以下、S37卒首都圏同期会と言う)は、平成元年(1989年)に同期会秋田本部の承諾の下、東京で立ち上げた会です。

当初は会員の住所が分からずだいぶ苦労し、本部にも協力を仰ぎどうにか会員百数十名の住所が判明し発足することができました。爾来、今年で27年目を迎えることになりました。

S37卒首都圏同期会は発足以来毎年11月同期会を東京で開催するのみならず年間を通じて、春は「春宵会」、夏は「暑気払いの会」等を開いて会員の親睦を図っています。これらの会には、時折

所用等で、秋田から上京した同期生をも巻き込んで、大いに盛り上がることもしばしばです。

当初は、会員も元気で前記各会や時折開催する「昼食会」等に、多くの会員の出席があり喧々譁々と結構楽しんでおりました。

しかし、近年熟年にぐっと近付いたせいか、段々出席率が悪くなってきたのが悩みです。それでも未だ百二十名の方々が、健在で頑張っておりますので、まだまだ、S37卒首都圏同期会を続け、会員の親睦を図り情報の交換をして行きたいと、幹事達は思っております。



「マサナオ、負けるな！」(S54同期会)

平野 順 S54卒

昭和54年卒の齋藤正直君が昨年、母校の専修大学野球部監督に就任した。専大は東都大学リーグ最多の31度の優勝を誇りながら、1989年春を最後に優勝から遠ざかっている。名門復活を願う大学側から三顧の礼を尽くされて監督を受諾。昨春秋に2部リーグで優勝。青山学院大との入れ替え戦を2勝1敗で制し、1部昇格を決めた。

12月22日、東京在住の同期の一部が有楽町に集合。忘年会を兼ねて齋藤君を囲む会を開いた。同期の中では誰もがその存在を知っているが、簡単に紹介させていただく。

強打の外野手で、秋高では1年春から中軸を打ち、専大でも1年春からクリーンアップに座り、ベストナインに2度選出された。川崎製鉄千葉(現JFE東日本)では社会人野球の最高峰、都市対抗大会に選手、監督として12度出場。準優勝

監督にもなった。

後藤光尊(オリックス=現楽天)、藤田太陽(新屋高=阪神=ヤクルト=引退)をプロへ送り出し、アマを統括する日本野球連盟の競技力向上委員も務めた。選手としても指導者としての実績も十分。近鉄、巨人などで活躍した野球部OBの石井浩郎参院議員が「齋藤さんは雲の上の人」と言うほどである。

宴会に集まった50代半ばの同期約20人は昔話に花を咲かせながら、飲んで、食べて、騒いで楽しいひとときを過ごした。みんながこの日の主役の健闘を祈り、齋藤君も「期待に応えられるように頑張ります」と決意表明した。

東都の2部は各校のグラウンドで試合が行われるが、1部は神宮球場での開催。皆さん、神宮に足を運んで齋藤監督を応援してください。



特集寄稿・テーマ〈同窓会に望むこと〉

秋田高校同窓会会長 町田 睿 S31卒

今春は、卒業(昭和三十一年)以来、初めて卒業式と入学式に出席させてもらった。

三月一日の卒業式で、伊藤成年校長から、二百七十三名の卒業生に対し、「主体的に学ぶ力」、「他者と関わる力」、そして「行動力・チャレンジ精神」の三つの力を餞の言葉として格調高く贈られた。又卒業生代表からは、未知なる世界へ旅立つ喜びと期待に満ちた若者らしい答辞があった。私には、答辞の中にも、送る側の在校生代表のお祝いの言葉にも、共に鶯坂の登下校に言及していたことに、青春の想出が凝縮された爽やかな風のようなものを感じ、若さへの羨望にも似た感覚に囚われて嬉しかった。

四月七日の入学式では、二百七十五名の初初しい新入生が緊張した面持ちで、体育館の講堂に勢揃いした。ここでも伊藤校長からは、「将来の夢と具体的な目標をもち、主体的に学べ」、「人間としての強さを身に付けよ」、そして「よき友、よき師を得よ」と激を飛ばされた。プラスバンドの力強いワグナーの吹奏楽曲にも激励され、若者達の発する可能性の塊のような若さの空気をお裾分け頂いた気分であった。

もっとも私たちの時代は、一学年五百人を超える生徒数だったことを考えると、一クラス四十名の七クラスと、一人当りの生徒へ注がれる教育環境の密度は濃くなくても、一抹の寂しさを感じないではいられなかった。少子・高齢化と人口減少が加速する日本の中でも、四十七都道府県中、秋田県は最もスピードが速い。郷土消滅の危機を肌身に感ずる機会が多くなった。

同窓会の目的が、卒業生相互の親睦を図り併せて本校の発展に寄与することとあるが、さらに郷土の創生に貢献することも加えたいと思わずにはいられない。同窓会員二万一千人弱のうち県内が七割弱、首都圏が二割を占めている。東京一極集中の是正と地方創生を国も漸く本格的に採り上げることになった。名門秋田高校の同窓生のお力をお借りし、秋田創生の実を挙げる策はないものであろうか。同窓会活動のあり方にも工夫を加えてみたいと思っている。

卒業式での伊藤校長の祝辞の結び、「これら三つの力を磨くのは何のためか。それは『おのれを修めて、世のため尽す』ためであります。(一部省略)」が、ズッシリと重い言葉となって、胸に迫ってきた次第である。

秋田高校東京同窓会会長 橋本 五郎 S40卒

昨日と今日と明日を語りあう

秋田高校東京同窓会が東京・銀座の三笠会館で行われた時ですから、もう20〜30年前になるでしょうか。初めて東京同窓会に出ようと会場に行きました。ところが、知った顔がどこにも見えない。とても入る勇気がなく、会場を間違えたかのような顔をしながら、引き返したことを思い出します。

同期会ならともかく、同窓会は知り合いがいないと敷居はとても高いのです。東京同窓会の会長をお引き受けして以来、いつも念頭にあるのは、いかに多くの人に参加してもらえるかです。そのためには、知った顔がいることで抵抗感なく参加できるかどうかが大切です。卒業年次ごとに中心になる人を決めて、まず横のつながりで参加者を増やそうという試みもしていますが、なかなか成果が上がっていません。

同窓会は過去の郷愁に浸るだけであってはならないでしょう。「いま」を語り合う場でなければならないと思います。さまざまな職業の人たちが集まって語り合う異業種交流の場でもあるのです。人脈の広がりも含めて同窓会が積極的に活用されるようになればと思います。

その一環として、総会前に開かれる大学生の就職相談は確実に成果を上げています。回数を重ねるごとに学生参加者が多くなっていることがそれを物語っています。献身的に取り組んでおられる皆さんに心からお礼を述べたいと思います。これからはざっくばらんに商売のことを話し合う「商談会」の場であってもいいのではないかと考えています。何よりも同窓会に参加してよかったと思えることが大事です。

同窓会はまた、「明日」を考える場でもあります。同じ高校から東京大学の総長になった人がいるということは誇りです。役所の事務次官になった人、トップの企業の社長になった人から私たちは学ぶことができます。社会的な地位や名誉のある人だけではなく、同窓会に集う人のそれぞれの生き方から学ぶことは多いと思います。そのためにも、参加者を増やさなければなりません。

畑山 康幸 S42卒

昨年6月、大阪で大学時代の恩師を囲む集まりがあった。その会合で、母校の講師をしているという高橋学さんに会った。話を交わしているうちに、高橋さんが秋田高校の出身(昭和63年卒)で、同じ専攻であったことを知り、驚いたことがある。その後の会話がはずんだのはいうまでもない。同郷、同窓という事実は人を強く引き寄せる力をもっている。

近年、どこの同窓会も参加者が高齢化し固定化している、との声が聞こえてくる。確かに秋高同窓会の場合も中堅から若い人々の出席が少ないように感じられる。しかし出席を重ねるうちに見知らぬ先輩や後輩とも親しくなり意外な人のつながりができるのは貴重である。

私が卒業した大学の東京同窓会では、定例的に国際問題を中心とした講演会を開きそれなりの人数を集めているし、夏にはビアパーティーを催し200人近い参加者がある。振り返って秋高同窓会の活動はなぜか地味である。

首都圏に在住する秋田高校の卒業生は数千人に達するであろう。人材も政治、経済、科学、文化、教育など各方面にまたがっており、同窓会ほどの人材の宝庫は他に見当たらない。東京同窓会に望みたいことは、こうした人材を活用して定例的な講演会などを事業化するとともに、収益があった場合は同窓会に還元するような仕組みを構築するのも重要ではないかと思われる。講演会以外にも、ゴルフや囲碁将棋大会、東京近郊へのミニツアー、メルマガを活用した卒業生が関与したイベントや社会活動の周知宣伝も同窓会活動の柱となりうるであろう。

また会員への母校の現状報告や協力支援の呼びかけ、大学在学学生への就職情報提供などは今後も継続すべき活動である。安倍政権は地方創生を重要な柱としているが、その具体的な成果はまだみえていない。地方創生がミニ東京化、東京一極化の加速になってはならない。同窓会のネットワークを生かした秋田の地域再生への貢献も求められる。同窓会には社会貢献を実践する小グループがあってもよい。

しかし、こうした活動を幹事に依存するだけではうまくゆかないのは明らかである。かつてケネディ大統領は「国が諸君のために何が出来るかを問うのではなく、諸君が国のために何が出来るかを問うてほしい」と呼びかけた。同窓会の活性化を考えたときおもわずこの言葉が思い出された。

テーマに寄せて……

吉村 和就 S42卒

多くの仲間が定年を迎え、これからは自分自身で、やりがいのあることや、やりたかった事を享受できる最高の年回りである。しかし日本人男性の平均寿命が80歳を超え、これからの20年を楽しく過ごすには、すこしばかり工夫が必要である。

本来すべての物事は周到なる準備の基に組み立てられるべきであるが、まずは多面的な情報収集からはじめるのが一番であろう。しかし昔の会社の同僚からでは、新鮮味がないし、自尊心を傷つけたり、邪魔をすることがあるだろう。(お互い様だが・・・笑い)だからと言って見ず知らずの人に聞くわけにもいれない。そんな時に最も役に立つのが東京同窓会である。

特に幅広い年代を有し、様々な業種を経験し、多くの人脈を持つ先輩諸氏は、生きているデータの宝庫である。つまり同窓会の存在意義は、同窓会活動を活発化し、いかに生きた情報を持つ仲間を増やすかにかかっている。

では、そのためにやるべきことは、まず仲間意識を強めることが有効であり、さらに会員相互の連携を強め、知的レベルを深めることが一番であろう。もちろん年一回の総会や、その後の懇親会は大事であり、これをもっと盛り上げるために、企画案を練り、開催場所、講演会、催しもの内容などの工夫が必要であろう。いままでは、マスコミ等で名を挙げた人の話も多いが、むしろ多方面に情報収集源を広げるために、地域性のある話題が提供できる人や、趣味の世界で生きている人の話も増やし、すべての会員が参加できる機会を増やすべきであろう。むしろ、このような小集団の集まりは、総会でなくとも、適宜開催し、その成果を総会等で紹介し、さらに参加者を増やす努力も必要ではないかと考えている。

いづれにしても、今までのやり方では、やれることに限界があるので、東京同窓会を活発化するには少し思い切った提案が良いのではないと思う、もちろんお金のある東京同窓会ではないので、いかに良いアイデアをだすかが勝負である。同じ趣味の集まり(因みに私の趣味は自作真空管オーディオや自作スピーカー作り)、小集団でのビアパーティ、歴史めぐりの同窓会ツアー、きりたんぼ会、会員の卒業した企業訪問、工場視察、さらに東京裏町めぐりなど、多くのアイデアが生まれると思う。

ぜひ東京同窓会の会員の皆さんの建設的な提案を期待したい。

ご報告

秋高連

秋高連(あきこうれん/在京秋田県高等学校同窓会連合会)は、本年創立30周年を迎えます。

県北、県央、県南、44校の各東京同窓会の交流横断の連合体。設立当初からの目的は、各校の垣根を越えて“首都圏に秋田を”。県人会連合会等とともに「ふるさと秋田」PRの組織です。

最近では“秋田ふるさと応援団”や“秋田文化会議”などのネットワークで、昨年開催された“国民文化祭秋田”への参加、県東京事務所を窓口にしての宣伝活動といったことに盛大に取り組んでいます。

毎年11月の後半に開催される“秋高連フェスタ”。本年は11月30日に県知事をお招きしての30周年記念式典を予定しています。また併せて30周年記念誌の発行が進められています。

その他、ゴルフコンペ、秋田ふるさと訪問・母校訪問(今年は7月2・3日に由利本荘地区)、ミニ交流ハイキング(9月)。また首都圏で開催される全国大会出場校の応援、各ブロック交流といった事業が予定されています。

秋田弁でワイワイと楽しく運営したいと思っています。是非、同窓会員の皆さんも積極的なご参加を……！

秋高からは、大野省治(S42卒)が顧問として、武内暁(S42卒)が副幹事長として運営に参加しています。

今年は<戦後70年と秋田>も年間課題のひとつです。どんなことができるか……と考えています。

秋高連フェスタの様子



秋高連・けやき会の報告

武内 暁 S42卒

けやき会

けやき会は、秋田市内の高校8校(秋高、中央、南高、明桜、金農、北高、秋工、秋商)の首都圏同窓会に新屋郷土会を加えた9団体と事務局の秋田市東京事務所からなる地域交流会です。

毎年11月に秋田市長をお迎えしけやき会会員200名余の参加で開催される“在京秋田市政情報交換会”(秋田市と首都圏の企業・団体及び会員の交流・懇親の会/今年は11月18日予定)がメインイベント。

その他、“浅草竿燈祭り”(今年は9月26-27日の予定)の支援、ゴルフコンペ(9月中旬/佐倉)、高尾山ハイキング(10月17日予定)、年度末懇親会(16.3月6-7日予定)といった年間行事が行われています。同窓会員の皆様には、各行事へ是非参加していただきたく思います。

秋田市をいかに首都圏でPRするかがけやき会の重要なテーマです。本年、“第5回東北六魂祭”が秋田市山王大通りを会場として開催されます。20万人以上の来客が見込まれています。5月30日(土)・31日(日)が開催日です。東北六県の大パレードがあり、夜にはロウソクが灯る竿燈提灯の様子が見られます。ぜひ秋田市へ……。

けやき会には、我が高から伊藤清信(S37卒)と武内暁(S42卒)の両名が運営委員として協力しています。毎回の運営委員会(年5回)は、各団体の楽しい交流の場となっています。

高尾山ハイキング(左)と浅草竿燈祭り(右)の様子



支部だより

秋田高校同窓会 仙台支部より

仙台支部紹介

秋田高校同窓会仙台支部長 相澤 雄一郎 S28卒

秋田高校同窓会仙台支部は1973(昭和48)年に発足しましたが、1997(平成9)年の総会を最後に休眠状態になりました。

仙台市は隣接の泉市などを合併し1989(平成元年)、全国で11番目の政令指定都市に移行しました。人口は現在107万人ですが、仙台圏域には130万人が住んでおり東北地方の中核都市です。

同窓生は約600人、各界各方面で活躍している人たちも多数います。交遊グループの間で仙台支部を再興して母校・古里秋田と仙台の絆を強めようということになり、2008(平成20)年11月28日、再興第1回総会を市内ホテルで開催しました。

支部長は相澤雄一郎(昭和28年卒、元河北新報常務)、副支部長は千葉勝司(同29年卒、元東北電力)、新田日倅造(同30年卒、元東北電力常務)、幹事長は神谷謹一(同37年卒、元東北電力)、顧問は岩崎俊一(同19年卒、東北工業大学理事長、元学長)、吉本高志(同36年卒、元東北大学総長)の各氏が就任、昭和15年卒から平成15年卒まで各世代約100人(女性5人)が参加し、大盛況でした。



秋田高校創立140周年記念の仙台支部総会で
ダウン症障害のリコーダー奏者荒川知子さんと
父健秀さん(昭和33年卒)の親子コンサート

2009(平成21)年7月、仙台市長選挙で奥山恵美子さん(昭和42年、秋田高校に1年間在学、秋田市出身)が当選、政令市で初めての女性市長(2013年再選)になりました。再興2年目の総会に奥山さんも同窓会員として出席、以降、連続、参加しています。本校からはスクールカラーの紫地と校章に「秋田高校同窓会仙台支部」と染めた大旗が贈られました。

毎年11月に総会を開き、今年は再興8回目です。支部役員を10名体制にして、平成卒世代との交流を強化します。

岩崎顧問は1926年生まれで88才。世界の電算機の主流となった垂直磁気記録方式開発で2010年に日本のノーベル賞と言われる日本国際賞、2013に文化勲章、2014年にベンジャミン・フランクリン・メダル(電子工学部門)を受賞。母校の校訓である「おれを修めて世のためつくす」を実践されており、総会でのスピーチは、後輩同窓生たちを励ましてくださっています。



2014年、岩崎顧問の仙台市名誉市民顕彰を祝い花束を贈る奥山市長

本部だより

本部事務局長 佐藤 英明 S46卒

我が秋田県立秋田高等学校同窓会は、大正4年8月22日に創設されています。この日開催された第1回同窓会大会の様子について、「秋高百年誌」は、「八月二十二日午後二時三十分より母校において開催、式場にあてられた雨天体操場は万国旗で装飾し、幔幕を四方に繞らして…(中略)…発会の経過が詳細に報告された」と記されています。

この年から数えて、今年はずっと百年目。同窓会は、学校の周年に合わせて行事を持っており、同窓会の周年行事はもってきませんでした。しかし、百年だけは別。同窓会設立百年をお祝いするささやかな行事を持ちたいと思います。

平成27年度通常総会を6月21日(日)に開催しますが、総会に引き続いての講演会・懇親会を今年だけは、同窓会設立百周年記念講演会・同窓会設立百周年記念祝賀会としてお祝いします。記念講演会講師は、東京同窓会の国立東京博物館館長銭谷眞美氏(昭和43年卒)、詳細については5月20日発行予定の同窓会だより97号でお知らせします。東京同窓会からもたくさんの方の参加をお待ちしています。

なお、第1回大会で本校の前身秋田中学が準優勝した全国高等学校野球大会いわゆる甲子園大会も今年が100周年。延長13回の接戦の末2対1で敗れた京都二中との決勝は、同窓会設立の翌日の8月23日。何か不思議なものを感じます。今年12月、第1回大会参加の10校のOBが甲子園球場に集まる計画が進んでいます。もちろん本校も出場する方向で準備が進んでいるようです。

現役の野球部も、新入生を迎え、夏の甲子園を目指しがんばっています。

幹事長だより

東京同窓会幹事長 鎌田 進 S47卒

毎年毎年春が明け春が近づくとなんか気分が高揚することに気づきました。

1年の計は元旦にありと言ひ新しい年が明けると「今年こそは」という気になり、河津桜が満開と聞くともう春がそこまで来ていると感じ、学校の入学式シーズンとなると新しい何かが始まるようなウキウキ感ができます。そう思いながらも長い長い人生の3分の2を経過しているのだとふと我に返る時があります。年老いてからどのように過ごそうかと考えると一抹の寂しさも感じられます。

さて、今年の賀詞交歓会は秋田から舞妓さんをお呼びして華やかな会になりました。今後も楽しい会を目指してまいります。今度の総会は記念講演に町田睿さんをお迎えして「秋田の現状と今後の展望」についてお話を頂きます。

町田さんは富士銀行出身で荘内銀行頭取を長く務め同行相談役、北都銀行会長をされています。去年本部同窓会の会長に就任されました。素晴らしいお話が聞けることと思います。多くの方のご出席をお願いいたします。

会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願いいたします。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。今年度会費納付済み方に重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。郵便局の口座番号は次のとおりです。

00150-0-353596
「秋田高校東京同窓会」

平成26年度/会費納入者一覧

平成26年11月1日～平成27年3月31日 現在

昭和31年	町田 睿	昭和44年	高橋 裕次郎	昭和50年	佐々木 幸哉	平成08年	伊藤 正寛
昭和36年	松岡 直昭	昭和46年	鈴木 滋郎	昭和50年	平野 春夫	平成10年	三浦 茂樹
昭和41年	田口 佳孝	昭和46年	曾我 貢誠	昭和54年	加藤 尊		
昭和42年	佐藤 春美	昭和49年	長谷川 高	昭和56年	佐藤 恵		
昭和43年	田村 慶則	昭和50年	熊谷 善樹	昭和60年	大窪 克之		

ご協力に感謝いたします